

日常の作業で感じた危険に関するアンケート

1. 信越化学4工場におけるアンケートの結果(実施期間:2007年3月29日～4月16日)

	直江津	武生	群馬	鹿島	合計
配布数	1,485	1,088	950	484	4,007
回答数	1,444	979	920	437	3,780
回収率	97.2%	90.0%	96.8%	90.3%	94.3%

2. アンケートに見る生の声

アンケートから「ヒヤリハット」に関する代表的なものとその改善策を下記にまとめました。

* 事例によっては更なる具体策を検討し、対策を講じてまいります。

ヒヤリハットの要因	アンケートの声	改善策*
人	出荷門へ行き来するときトラックスケール前を通りますが、特にローリー車計量中にも拘わらず前を歩行する人がいます。危険だと思います。	場内ルールでは禁止されていますので、再度ルールの徹底教育を図ります。
	ローリー、コンテナの梯子での昇降の際、手や足を滑らせ転落する危険がある。	始業前の危険予知活動(KY)を実行して、梯子の昇降時の安全の確保を図ります。
	夏など、白衣の袖を腕まくりしている人がいて腕に薬品や試料などがかからないか、又乾燥器内の出し入れ作業時に腕がすれないかと危なく感じる。	薬傷や火傷の危険を含んでいる化学工場で作業している事を再確認し、安全のルールに従った正しい作業服の着用を教育して行きます。
	台車の前進と後進のスイッチを間違えて台車にあたりそうになった。	指差呼称の実行により、間違いを防いでまいります。
	食堂やトイレ付近でよく見かけるが、車のエンジンをかけっぱなしで食事や用を足している人がいる。エンジンのかけっぱなしによる他社での火災の事例もあるので、危ないのではないか。	出入業者を含め、場内では停車中はエンジン停止を徹底させます。
	大きな事故災害となる作業は行っていないが、ちょっとした非正常作業でカッターを使用することもある。その際に危険とを感じる時もあるので、面倒でもケブラー手袋を使用する様にします。	作業前KY、作業指示KYを通じて、保護具の正しい着用を確実にします。
	メガネの上に保護メガネがしずらいため、ついするのを忘れる。	メガネの人には眼鏡用の保護メガネとして、ゴーグルを支給し、着用してもらいます。
	早く作業を済ませようと素材を運ぶ時、無理に多く箱を持ったり、積んだり持ったまま歩いたりした時、一時とは言え、落としそうになったり足がもつれたりした。	あわてたり、早く作業をすませないように、安全職場会で徹底を図ります。
	スタッカーより製品を引き出しパレット上に移す際の底の方に空箱を置いていることがあります。重量物であるためある程度力を入れ、物を持ち上げるため、空箱が混じると転びそうになる。	思い込みで作業するのではなく、空荷と実入り荷を区別できるように置き場所を明確にし、勘違いを防ぎます。
	高所作業での落下防止ベルトの着用をした方がよいのでは思えることがあった。	高所作業は法律で決められています。保護具の正しい使用を教育します。

ヒヤリハットの要因	アンケートの声	改善策*
設備	溶剤が多いところに粉体をマンホールから投入する作業があり、爆発の恐れがある。密閉系に改善出来ないか。	取扱物質の危険情報を再確認し、その上で当該作業では、密閉系の設備等に改造し、爆発火災の危険性を排除する検討をします。
	製品タンクのマンホールを開けての溶剤による洗浄は、室素置換しながら行っているが静電気着火の恐れがある。密閉下で行える様にしたらどうか。	指摘の通り設備の密閉化を図り、洗浄工程の安全化を進めます。
	原料仕込み作業を行っている時、足場に凸凹があるためつまずいて倒れそうになることがある。	作業床足場の現場確認を行い、より安全な様に凸凹を改善します。
	重量物を扱う現場である為フォークリフトでの作業が多く通路をひっきりなしに走行しています。そのため作業者との接触事故がいつかは起こりうる事が予想されます。フォークリフトの運搬作業は無くならないと思いますが少しでも自動化になれば危険性も減ると思います。	人とフォークリフトの動線の見直しを行います。あわせて運搬作業の自動化も検討します。
	設備の基本操作は同じであるが、バルブの型式や位置などが異なちまちちとなっている。また、制御盤の釦やランプ位置なども建設時期で差異があり、操作を間違えるのではないかと不安である。統一することはできないでしょうか。	指摘の箇所を再確認し、勘違いの起こらないように、表示を見直します。
方法	室内で溶剤による機器洗浄と濾過の作業が重なる時、引火・爆発の危険を感じる。換気を強化する必要がある。	工程の安全評価をやり直し、リスクの顕在化を行います。その上で、危険な工程は分離する様になります。換気は測定の上、強化検討します。
	加工する物の重量が重くなってきているので落としそうになった。	高重量物を扱う作業方法を見直します。あわせて、省力化設備の検討もして行きます。
	重い金型を取付ける作業時のミスによる怪我が心配である。	重量金型の移動や取付補助機器の見直しを進め、危険性を排除の検討をします。
	加圧容器を外す時等、圧を抜くのを忘れそうになる事がある。内圧が分かる計器を取り付ける。	作業手順は作業指図書や標準動作書に定められています。手順に問題ないか再度確認し教育します。
	真空ポンプのオイル補給時、注入口のフタを取ったら中から熱いオイルが出て、火傷しそうなったことがある。	真空ポンプのオイル交換や補給の作業手順は、作業指図書や標準動作書に定められています。手順に問題がないか再度確認し教育します。
	容器の酸洗浄作業で直接洗浄液槽に容器を浸す時に薬傷する可能性がある。(決められた保護めがねと手袋に加えてエプロン着用も義務化しては)	容器の酸洗浄作業に関しては、マニュアルの内容に不備がないかどうか再確認し、周知徹底します。
	薬品を扱った時、飛沫が目に入ったこと。視力が悪くて、普通のメガネをかけていると、保護メガネをかけない。メガネをしているから大丈夫と思うからだ。視力が悪くてメガネを使用している人も保護メガネが必要だと思う。メガネ使用者用の保護メガネがある。	指摘の通りメガネ使用者用保護メガネやゴーグルを着用させます。
	台車にプラスチックボックスを山積みにして移動し、通路で風や段差でプラスチックボックスがくずれたりしている。横を通りかかった人に当たる可能性がある。	置き場の整理整頓を行うと共に台車の移動通路の確保を徹底します。
	プラスチックケースを積む際、うまくかさなっていなかったり、プラスチックケースから製品がはみだした状態でプラスチックケースを積んで台車を押している時、危険だと感じた。	荷積み標準化を図り、また、移動時の安全のルール化を進めます。

ヒヤリハットの要因	アンケートの声	改善策*
管理	床に置いてあるものにつっかり、倒れそうになった。	指定された場所を明確にし、その場所以外に物を置かないように管理を見直します。
	加工するロッドを運んでいるときに、床に張ってあるSUS板がめくれていて転びそうになった。	直ちに見直します。危険箇所発見時は、日々のミーティングや申し送りで上司に連絡いただければ、即対策を実行させます。
	6炉、7炉階段を降りる時、手摺りを伝っていた手が建物の壁と手摺りが近いために手のはさまり、バランスを崩して転倒ケガをする危険がある。	建屋、壁、通路等に危険がないか確認し、安全に作業出来るように管理を見直します。
	外部業者の出入りが多く、常に場内に車が移動している。車での場内乗り入れを制限するか、昼休み等、特定時間内の通行を禁止してはどうか？	場内交通ルールに基づき車両の乗入れ制限を行っています。場所や時間帯で危険状態があるか見直します。
	夜間パトロール中、計量のところが暗い。外灯があると良い。	作業環境測定で照度確認を行っていますが、指摘場所は再度チェック対応します。
	女性の夏用作業服上着のお腹の部分がブカブカして物に引っかかりやすいので危険に感じます。もう少し体にフィットした服の方が良いかと思います。	指摘された内容も含め、全体的に一度見直し作業を行います。
	鉄板を敷いてある通路で鉄板と鉄板の間に段差がある所があるので、台車で通る時に台車が段差で引っかかって、転倒しそうになった。	直ちに見直します。危険箇所発見時は、日々のミーティングや申し送りで上司に報告の上、即対策を実行させます。
	危険物の種類が多い(原料)ので、各現場で使用する危険物一覧を作り、危険度を再度見直した方がよいと思った。	危険物は管理規準に則り、保管数量管理しています。日々、状況確認すると共に、作業での危険性について教育方法頻度等を見直します。
その他	雨漏りの場所があり、機側の制御盤などに雨水が浸入し、ショートなどの故障を生ずるのではないかと心配である。	指摘箇所は、場所を特定し、直ちに修理します。
	人員が少なく、異常の発見が遅れる恐れがあること、一人の持っている仕事量が多く注意不足になることもあるなどの不安を感じることもある。設備面、管理面について新たな考え方で対策を実施することが必要がある。	設備の自動化省力化を推し進め、作業者の負担を軽減して行きます。
	自動ドア、扉など反対側が見えない作りになっているため、自分が注意していても相手が不注意でぶつかりそうになる。	思い込みで行動するのではなく、周囲の安全を確認して行動するように教育します。また、場所によっては、センサーやパトライトの点滅の工夫もします。